

特別支援教育の視点から 幼児教育・保育を考える

—インクルーシブな保育で「共生社会の担い手」を育む—



よろしくお願ひします！

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター
久保山茂樹



2023.7.5 日野市教育委員会 幼児教育・保育の在り方検討委員会

1. これからの幼児教育・保育が目指す方向性

幼稚園教育要領の前文（暗唱したいくらいの名文！）

これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、
（略）一人一人の幼児が、将来、**自分のよさや可能性を認識**^①するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働**^②しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**^③となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。

小・中学校、高等学校、特別支援学校にも同様の記述

「前文」に見る これからの子どもに育てたいこと

③ 持続可能な社会の創り手
共生社会の担い手 となる



② あらゆる他者、多様性を尊重
して協働する



① 自分のよさ・可能性を認識する



幼稚園等は、特別支援教育の考え方を実践してきた

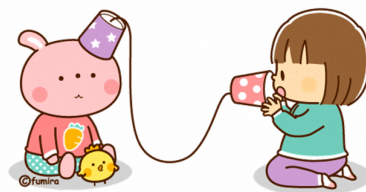
幼児一人一人の特性に応じた**特別支援教育は**、
一人一人の幼児の姿を丁寧に見取り、適当な環境
を整え、遊びを通じた教育を進める**幼児教育の考え**
そのものである (函館市立はこだて幼稚園：2015)

幼稚園教育要領 (第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本)

3 (前略) 幼児の生活経験が**それぞれ異なること**
などを考慮して、**幼児一人一人の特性に応じ**、
発達の課題に即した指導を行うようにすること

特別な支援が必要な子どもの在籍に偏りがある可能性

- 「うちの幼稚園には、障害のある子どもはいません」と言い切る園長先生が経営する園
- 5歳児の秋になって退園する（せざるを得ない）子どもがいる園
- こうした子どもを、受け入れる園・先生・子どもたち（これが毎年繰り返される実態）
- 全園児の約3割が、特別な支援が必要な子どもである園



個別の療育と園での生活

- **併行通園**
 - ・幼稚園等に通いながら、児童発達支援（療育）を利用する子どもが増加
 - ・週3回、別々の児童発達支援に通う子どももいる
- **保育所等訪問支援**
 - ・療育と同じことを、園の保育に求める療育担当者
 - ・園、保育者の混乱 ↔ 保護者の思い、願い
- **児童発達支援の目的は何か**
 - ・その子の良さを伸ばすためになっているか？
 - ・「集団に適応させる」ためなのか？
 - ・そうだとしたら、適応しなくてはならない集団とは何か？

園の保育の質に課題があるのに、 子どもの特性や障害のせいになっている園がある

- ・保育者主導の保育
- ・設定活動中心の保育
- ・行事中心の保育

- ・子ども主体の保育
- ・遊び中心の保育
- ・柔軟さのある保育



- ・均質な子どもの集団
- ・特別な支援が必要な子どもは生活しにくい
- ・特別な支援が必要な子どもと生活した経験がない 乏しい

- ・多様性のある集団
- ・特別な支援が必要な子どもも生活しやすい
- ・特別な支援が必要な子どもと生活した経験がある 豊富

多様性を理解し尊重できるような保育の見直しが必要

2. 「共生社会の担い手」を育む

想像してみましょう、
10年後、20年後の社会

子どもたちが大人になって活躍する頃、
どんな社会になっていると思いますか？

子どもたちに
どんな社会を託したいですか？

そのために、いま、
私たちに何ができますか？



トウインクルSUN

インクルセンター
マスコットキャラクター

共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。

それは、**誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会**である。

このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月 中央教育審議会初等中等教育分科会報告)

共生社会の形成を目指す者として

- いままでは、どちらかと言えば・・・
障害のある人が、社会に合わせてきた。
障害のある子どもが、園や学校に合わせてきた。
- これからは、
社会が、どれだけ多様な人々に合わせていけるか
園や学校が、多様な子どもがいることを前提に
変わっていけるのかが問われている。 → **挑戦!**
- そのために変わり続ける社会こそが、 **共生社会**
園・学校は、**共生社会の担い手** を育む場となる。



保育者が、多様な価値観を持つこと



- ・早くできることは、素晴らしい！ でも…
→ **も素晴らしい！**
- ・大きな声で話せることは、素晴らしい！ でも…
→ **も素晴らしい！**
…なクラスも素敵！
- ・ともだちと一緒に遊べるのは素晴らしい！ でも…
→ **も素晴らしい！**

少数派が、多数派に近づく という方向性 少数派が変わることを求める発想

少数派の
子ども



能力を身につける

子どもが努力して
できないことを、
できるようにする

能力をおぎなう

特別な道具や方法で、
できないことを
できるようにする

多数派の子どもたち
保育者



多数派が、少数派に近づく という方向性

多数派の子ども、教師が変わるという発想

少数派の
子ども



子ども理解

多様性を認め合う
得意、良さも知る
共感のまなざし

保育の改善

だれもが、生活しやすく
学びやすい環境づくり

多数派の子どもたち
保育者



能力を身につける

能力をおぎなう

子ども理解

保育の改善



- いままでは、**右向き矢印**→ を追求してきた
= 少数を**多数に合わせる**ことを目指してきた
- これからは、**左向き矢印**← を追求したい
= **多数の側がどれだけ変われるか**の挑戦！

「気になること」に 隠れてしまっている

良さ、得意分野、その子が役に立つこと

いま持っている力でできること、そして、**魅力！**

を見つけ、ともに楽しむ！

→ いつも、一緒にいるからこそ
忘れてしまうかもしれない



●子どもへのまなざしが、**評価のまなざし**
になっていないか？

●できないことが、その子のすべてなのか！

●子どもは、訓練するために生まれてきたのか？

障害から見ること、障害から見ないこと

● **障害、できないことに着目する視点**
【評価のまなざし】

・できないことを、できるようにする・変える

● **ともに生活する者の視点**
【共感のまなざし】

・なるほど！ おもしろい！

・いまできていることを豊かにする



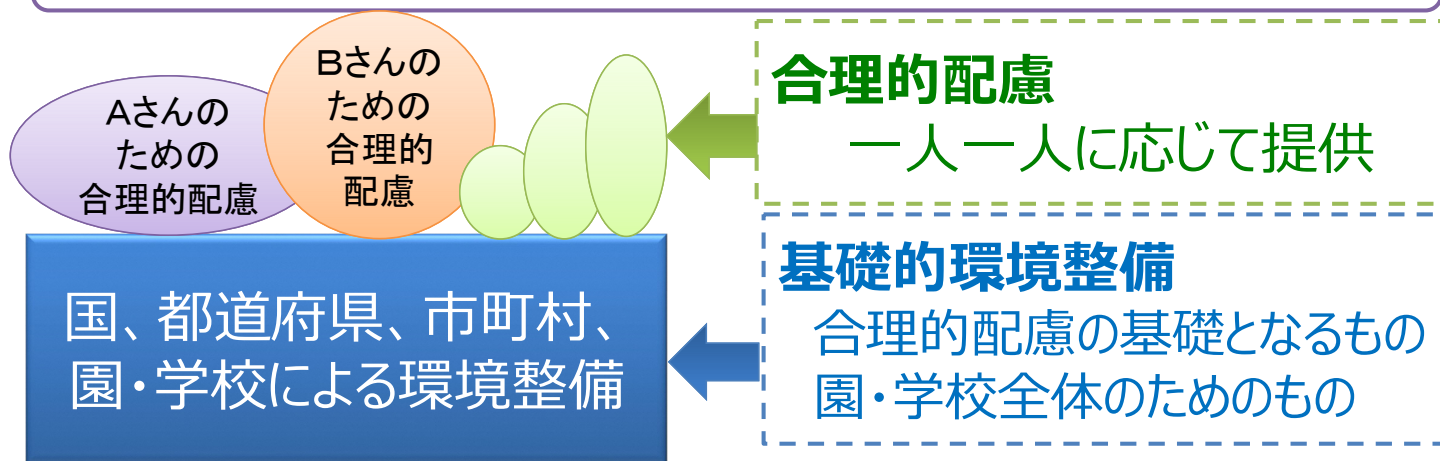
どのまなざしで、
子どもを見たいですか？ かかわりたいですか？

合理的配慮と基礎的環境整備

合理的配慮・・・ 障害のある子どもが、他の子どもと平等に

「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために

- ・ 学校の設置者及び学校が **必要かつ適当な変更・調整を行うこと**
- ・ 障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に **個別に必要とされるもの**
- ・ 学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、**均衡を失した又は過度の負担を課さないもの**

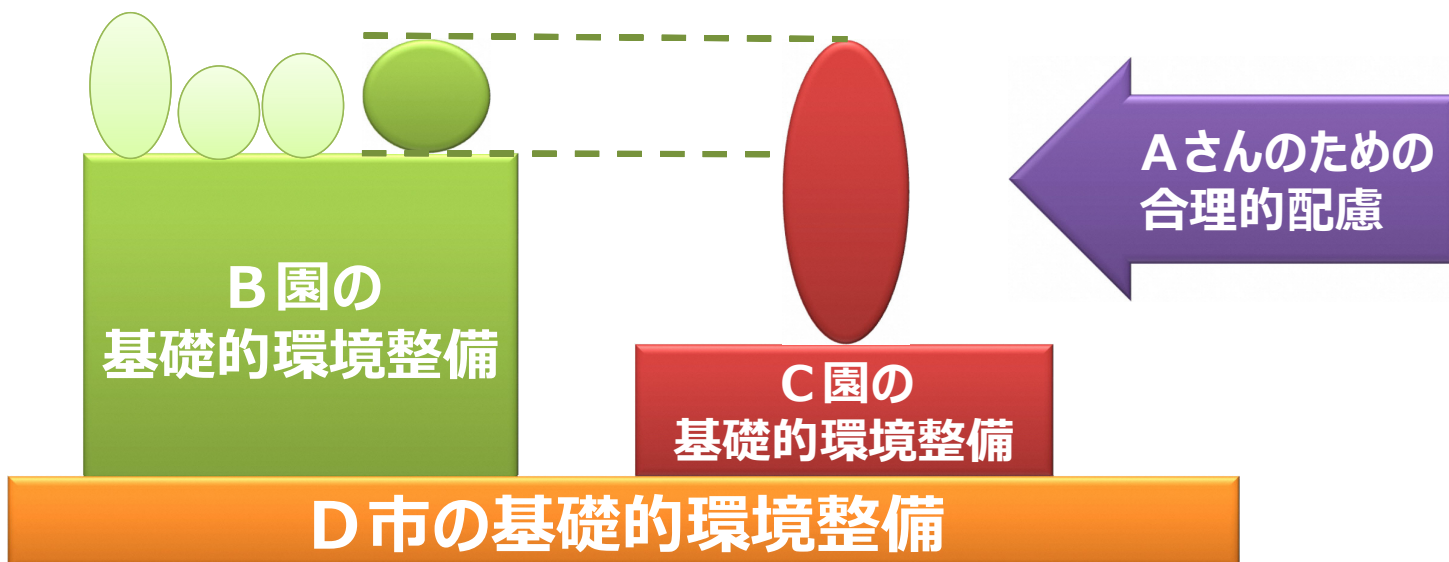


基礎的環境整備の充実 = 保育の質の向上

基礎的環境整備によって、必要な**合理的配慮**は変わる

同じAさんが、基礎的環境整備の充実したB園に通うのと、充実していないC園に通うのとでは、必要な合理的配慮が異なる

環境を整える、かかわりを変える = 保育の質の向上



保育の質と個に応じた支援

- ・園では個に対応することが全てではない
- ・日常保育の質の向上が支援の土台

④
合理的
配慮

④ 個に応じた支援

③ 生活の中に埋め込まれた学び

② クラスの実態によるカリキュラムの調整

① 日常保育における質の高い保育プログラム

①
③
基礎的環境整備

S.R.Sandall et.al (2002,2019) Building Blocks

3. 子どもの視点で保育を見直す

保育の基本は これなら だいじょうぶ = **安心** ですよ

- 子どもの**特性は、簡単には変わらない** かもしれない
- でも、**保育者の発想**や**保育を変えること**はできる
支援が必要な子どもの視点から↓
 - ・「うちの園は毎年こうしている」に縛られない
 - ・今年の、この子どもたちから、始める保育
 - ・子どもを集団に合わせさせるのではなく、
一人一人の子どもに応じることを考える



これでも だいじょうぶ

へと拡げていく

これなら だいじょうぶ を基本に

- 時間の区切りのゆるやかさ
- 空間の区切りのゆるやかさ
- 先生との関係のゆるやかさ
- カリキュラムのゆるやかさ



支援が必要な子どももまわりの子どもも育つ保育

- 得意を生かす = **幼児期から自己肯定感を育む**
できないことの改善よりも → 手持ちの力で、
いま、できていることを認める、豊かにするかかわり
 - ・保育室内に、「○○ちゃんの安心コーナー」を設置
 - ・保育室内に、「翼竜の展示と説明コーナー」を設置
 - ・ホールに、新幹線と「旅行会社のカウンター」を設置
- まわりの子どもが育つ = **共生社会の担い手が育つ**
 - ・葛藤も経験し、自分の力で解決して育つ
 - ・保育者の姿がまわりの子どもに映り、移っていく
 - ・子ども同士の豊かな関係性が育つ



あの子と私の 安心できるつながり を作ろう

- いま 持っている力 で、宝物をさがそう
 - ・自分が楽しめること、のめりこむこと
 - ・誰かの役に立つこと……
- となりに並んで、あなたを見ているよ
 - ・できるーできない、○or×? ではなく
 - ・好きだなあ！ おもしろいなあ！ …
- できない自分も、
S O S も出していいよ



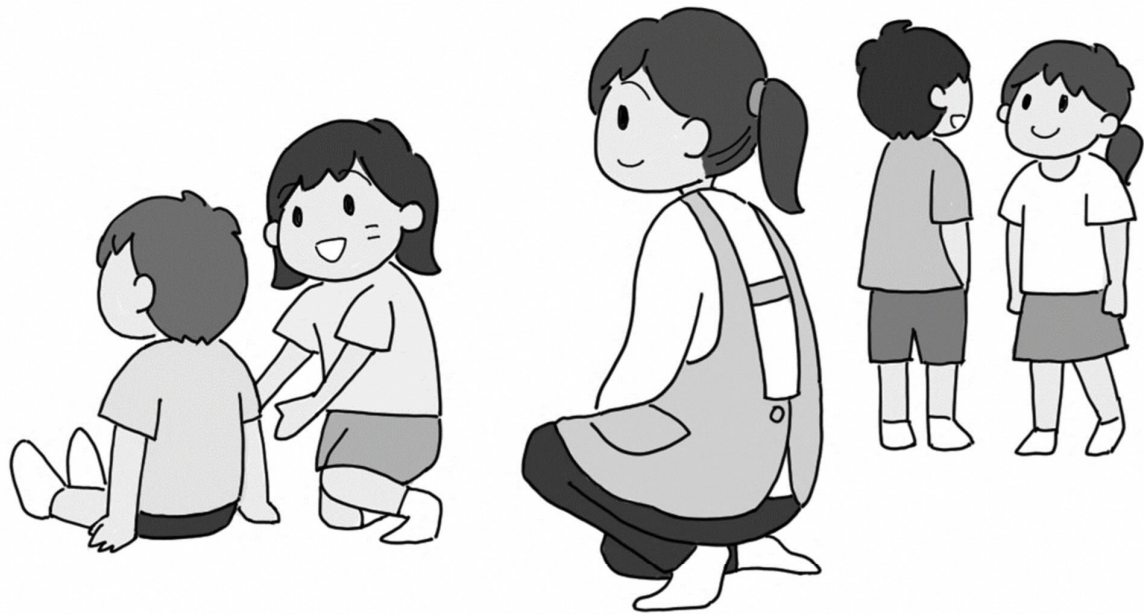
○○ちゃんとまわりの子との つながり を作ろう

○○ちゃんを理解者 そして 共生社会の担い手へ

- 保育者の姿が、子どもに映る、そして、移る
 - ・大人が気になる○○ちゃんは、まわりの子どもも気になっている かかわりたいと思っている
 - ・そのかかわり方の大切なヒントの1つが、
保育者の姿
- クラスの大切な「なかま」という時間
 - ・「クラスの様子を見ているだけ」でも参加している！



保育者の姿が、まわりの子どもに移っていく



一人ひとりのちがいを大切にしたい

「みんな同じだ」と思っていると、
ちょっとした「ちがい」が気になる
だから、人間関係が悪くなる つながりが切れる
でも、

「みんなちがうんだ」と思っていれば、
「同じ」を見つけるよろこびがある
「あっ同じだ！」と思える

そして、その人とつながり合える

故大石益男先生の教えから



まとめ・・・特別支援教育の視点から幼児教育を考える

● 全ての子どもが安心して過ごせる保育の追求

- ・特別な支援ばかりではない
- ・保育者の知恵、ワザを結集して、活用する



● 保育の質の向上によるインクルーシブな保育の実現

● 保こ幼・小の連携の充実と小学校の理解

- ・保育者と教師がともに学ぶ、語る、わかりあう
- ・幼児期に、「ここまで育てる」ことを、求めるだけでなく、「ここまで育った姿」を受け止める姿勢が小学校に必要

● 教育委員会の理解とリーダーシップ

- ・私立幼稚園、認定こども園、保育所を含めた施策

ご清聴ありがとうございます

みんなで咲かせた 花さき山 = お互いの良さを見つけよう



大変お疲れ様でした。
子どもたち、保護者、保育現場の先生のため
に実りある検討がなされますように